

葛西臨海公園での2020年東京五輪カーヌー競技場建設計画の変更について東京都への意見表明を求める陳情

(総務委員会付託)

受理番号 第90号 受理年月日 平成24年6月18日
付託年月日 平成24年6月21日
陳情者

陳情原文 東京都は2016年に引き続き2020年の五輪開催地として立候補しました。招致委員会がIOCに提出した「申請ファイル」によりますと、前回立候補時と同様、葛西臨海公園西側一帯をカーヌー（スラローム）競技場の建設予定地としています。計画では総延長400m（前回計画）の競技コースと1万2千人収容の観覧席を、1年半の工期で建設することになっています（資料1）。カーヌー競技場は五輪終了後もカーヌーやラフティングの施設として残す計画です。葛西臨海公園の、鳥類園・水族園・大観覧車・ホテルシーサイド江戸川などを除く、地域の約1/2が競技場施設になってしまいます（資料2）。

私たちは五輪の東京招致に反対するものではありませんが、以下の理由により葛西臨海公園へのカーヌー競技場建設には反対し、都または区の遊休地など別の適した場所への計画変更を求めます。

建設予定地の変更を求める理由

1 競技場建設予定地の豊かな自然環境を破壊する

葛西臨海公園は開園から23年を経過し土壌も植生も豊かになり、海・池・湿地・草原・林などの変化ある環境に恵まれ、多様な生態系を形成しています。建設予定地（公園西側）だけに限っても、会の今までの観察によると鳥類（山野の鳥）76、昆虫140、クモ80、樹木91、野草132種類を記録しています。

トラツグミ、チョウトンボ、コガネグモ、ウラギクなど東京23区では絶滅危惧種に指定されている生物26種も確認しています（資料3）。建設予定地一帯は、区民が身近で自然に親しめる貴重な場となっています。

多田区長は江戸川区のホームページで「本区は、都会にありながら自然と触れあえる、水と緑のゆたかなまちです」と語っておられます。区民の誇りである都内屈指の豊かな自然環境が破壊されるのを看過することはできません。

2 区民のかけがえのない憩いの場が消滅する

葛西臨海公園には昨年（平成23年）は320万人の行楽客が訪れています。建設予定地（公園西側）には、バーベキュー広場、海を見下ろしながら家族が弁当を広げてくつろげる芝生地帯で、歌手のコンサートや江戸川よさこいmyフェスタなどのイベントも行われてきた汐風の広場、松林や池・谷筋の散歩道、桜並木などが

(裏面に続く)

在ります（資料２）。競技場が建設されるとこの場所の全域または一部が利用できなくなります。数日間の五輪競技開催と利用者がごく限られた恒久施設のために、四季を通じて楽しめる区民の憩いの場が消滅してしまいます。区民としては納得できません。

具体的開催計画をまとめた「立候補ファイル」は来年１月までにＩＯＣに提出することになっています。つきましては、その計画が決まる前に貴議会において東京都に対し下記の対応をしていただきたく、陳情いたします。

記

当建設計画の内容・問題点を知らされていない多くの区民の意見を聞き、葛西臨海公園が自然の回復・保全を目指して整備された経緯もふまえて、東京都へ「カヌー（スラローム）競技場は別の適した場所で建設すべき」との意見書を提出していただきたい。